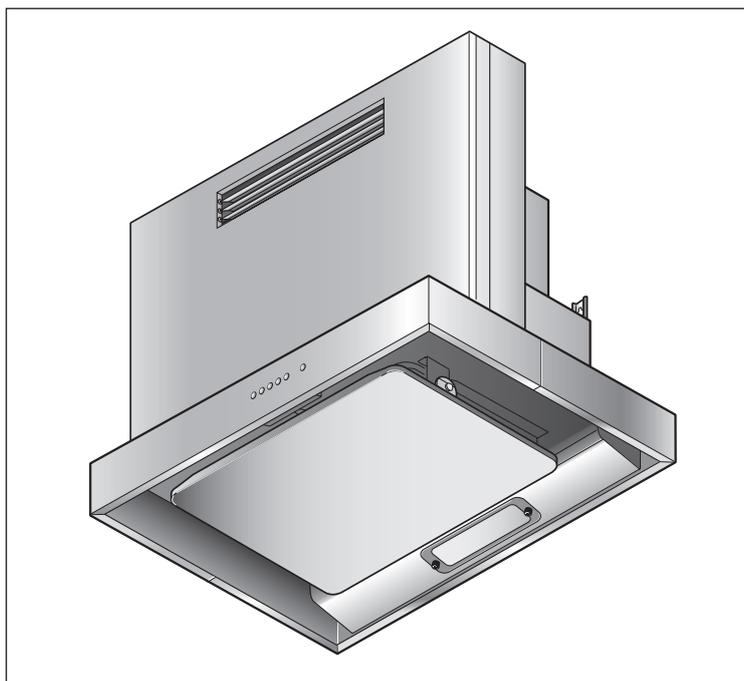


IHクッキングヒーター専用 室内循環フード 取付説明書



も く じ

安全上のご注意.....	2 ~ 3
取り付け上のご願い.....	4
取り付け前の調査と準備.....	5 ~ 7
各部のなまえ.....	8
製品寸法図.....	8
付属品.....	9
取り付けかた.....	10 ~ 20
1. 付属品の確認.....	10
2. 本体の準備.....	10 ~ 11
3. 本体の取り付け.....	12 ~ 13
4. タクトと排気用部品の接続.....	13
5. 循環ユニット本体の取り付け.....	14
6. 電気配線.....	15
7. 横ふさぎ板・循環幕板の取り付け.....	16
8. 各フィルターの組み立て.....	17 ~ 18
9. 各フィルター・前ふたの取り付け.....	19 ~ 20
10. 試運転.....	20
11. お客様への説明.....	20

販売店・工事店様へ：
この取付説明書は取り付け後、
施主様へ必ずお渡しください。

取り付け前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、
正しく取り付けをおこなってください。

1J03 1881-C



* 1 J 0 3 1 8 8 1 *

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。



注意：人が軽傷を負う可能性および物的損害*の発生が想定される内容。

* 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告



使用禁止

- IH クッキングヒーター以外には使用禁止
ガスコンロには使用できません
本製品は燃焼発生ガスを浄化できません
ので、一酸化炭素中毒の原因になります



換気をする

- 燃焼器具と併用して使用する場合は、必ず換気をする
カセットコンロ、石油ストーブ等の燃焼器具を使用する場合、必ず別途換気をおこなってください
また本製品で換気を併用する場合、必ず室外排気（換気）モードにしてご使用ください
一酸化炭素中毒の原因になります



分解・修理・改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



取付注意

- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります



アースを取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



取付注意

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

安全上のご注意

警告



取付注意

- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください



埋込禁止

- 室内循環フードの壁への埋め込みはしないこと

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

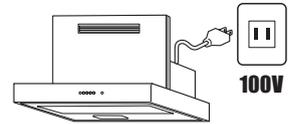
- 室内循環フードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火するおそれがあります



使用禁止

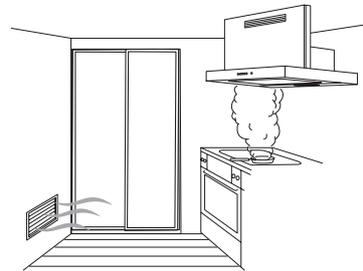
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



取付注意

- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること

排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります



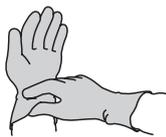
注意



手袋をする

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること

鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- 部品の取り付けは確実にこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

- 室内循環フードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります

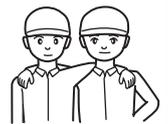


取付注意

- 作業は 2 人以上でおこなうこと

製品は以下の重さがあります

600 幅	38 kg
750 幅	40 kg
900 幅	42 kg



使用禁止

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）

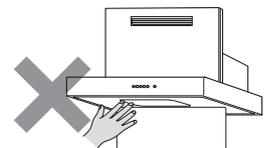
感電および故障の原因になります



接触禁止

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと

けがをするおそれがあります



取付禁止

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと

火災・故障の原因になります

取り付け上のお願い

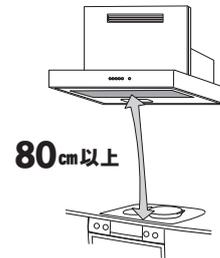
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- 大工事
(設置のための下地工事等)
- 配線工事
(コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等)
- 管工事
(ダクト配管および室内循環フードからのダクト接続等)

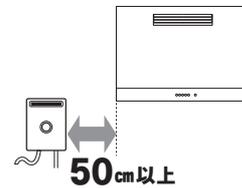
流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

- 備え付けのIHクッキングヒーター以外の燃焼器具を使用する際は、循環フードを換気モードで使用してください。また、キッチン全体の換気のため、別の換気設備が必要です。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・ 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- IHクッキングヒーターの幅は室内循環フードの幅以内のものをご使用ください。
IHクッキングヒーターは室内循環フードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は $400\text{m}^3/\text{h}$ 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりやすく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

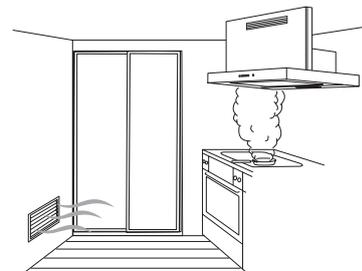
- 製品はIHクッキングヒーターの真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、製品の下端がIHクッキングヒーターの真上 80cm 以上になるようにしてください。



- 室内循環フード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm^2 程度の空気取入口を設けてください。



- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

取り付け前の調査と準備

警告



分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと

発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



取付注意

- 室内循環フードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください



アースを
取り付ける

- アースを確実に取り付けること

故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



埋込禁止

- 室内循環フードの壁への埋め込みはしないこと

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと

火災などの原因になります



取付注意

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
- 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

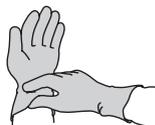
注意



手袋をする

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること

鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



使用禁止

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）

感電および故障の原因になります



取付禁止

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと

火災・故障の原因になります



取付注意

- 室内循環フードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



取り付け前の調査と準備

1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品幅	製品質量 (最終的に壁にかかる質量)
600 幅	38 kg
750 幅	40 kg
900 幅	42 kg

■ 板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）

- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板に室内循環フードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■ 土壁の場合

- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでおいてください。

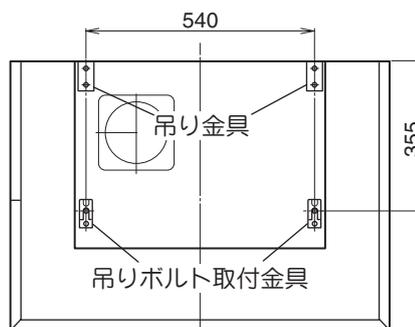
2 吊りボルトの設置

吊りボルト（取付作業側手配）2本を、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。

固定ピッチは前後 355mm、左右 540mm です。
(右図および製品寸法図参照)

天井面からの吊りボルトの突き出し長さは
405mm です。

- ※ 吊りボルトは M10（市販品）を使用してください。
- ※ 吊りボルトは耐荷重 200kg / 本となるように取り付けてください。

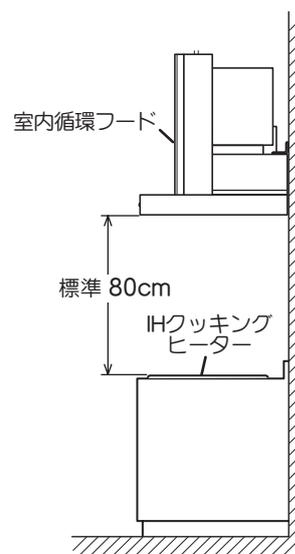


取り付け前の調査と準備

3 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、IHクッキングヒーターの上面から製品の下端まで 80cm です。

※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

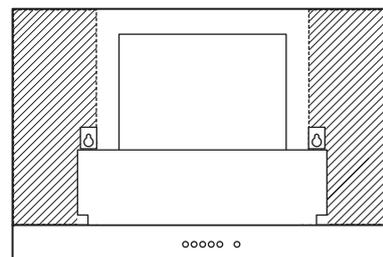


4 電源コンセント・ブレーカー

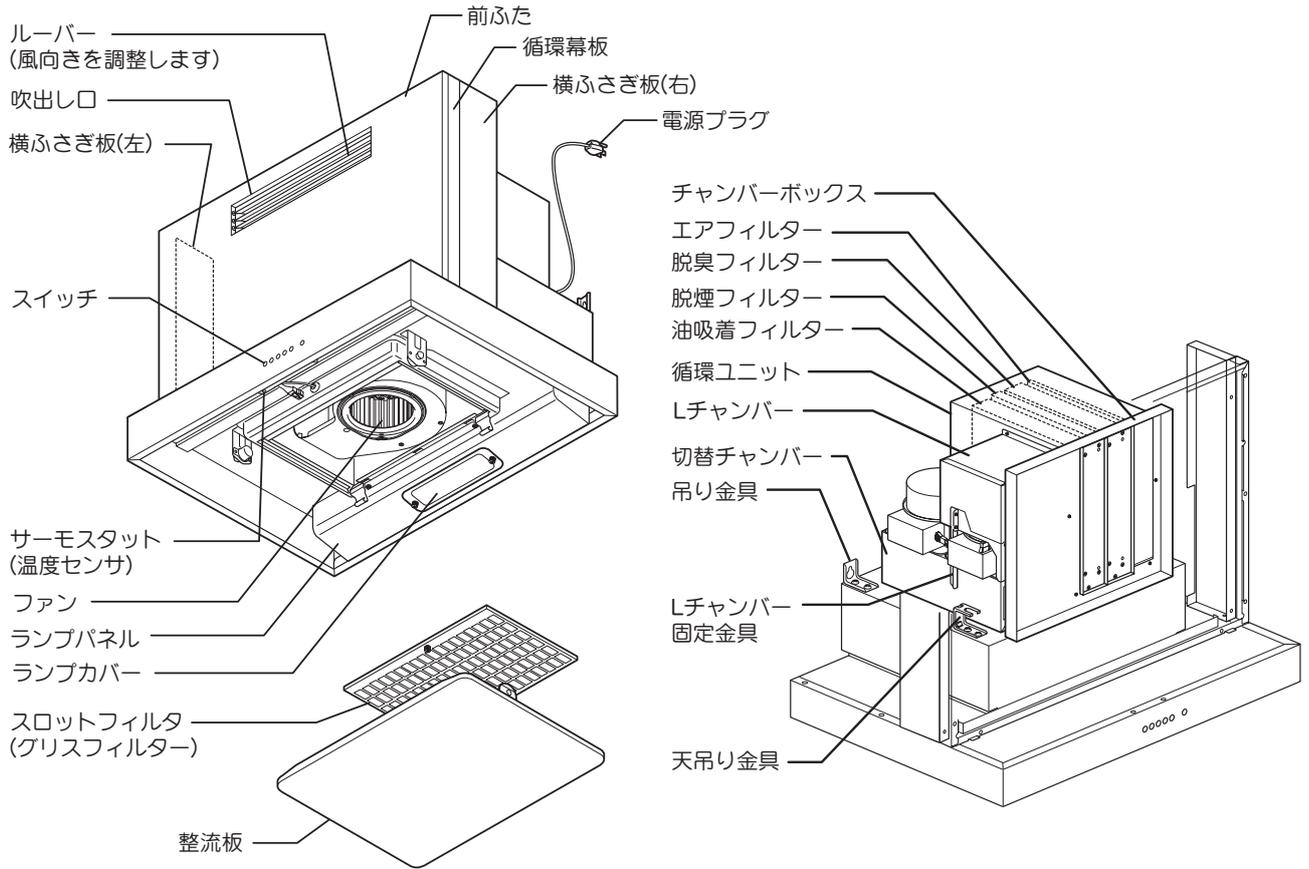
- 電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)
- コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。
- コンセントを壁面に設置する場合は、事前に製品寸法図を参照し、循環ユニット本体のサイズに合わせて右図に示す斜線の範囲内に設置してください。

お願い

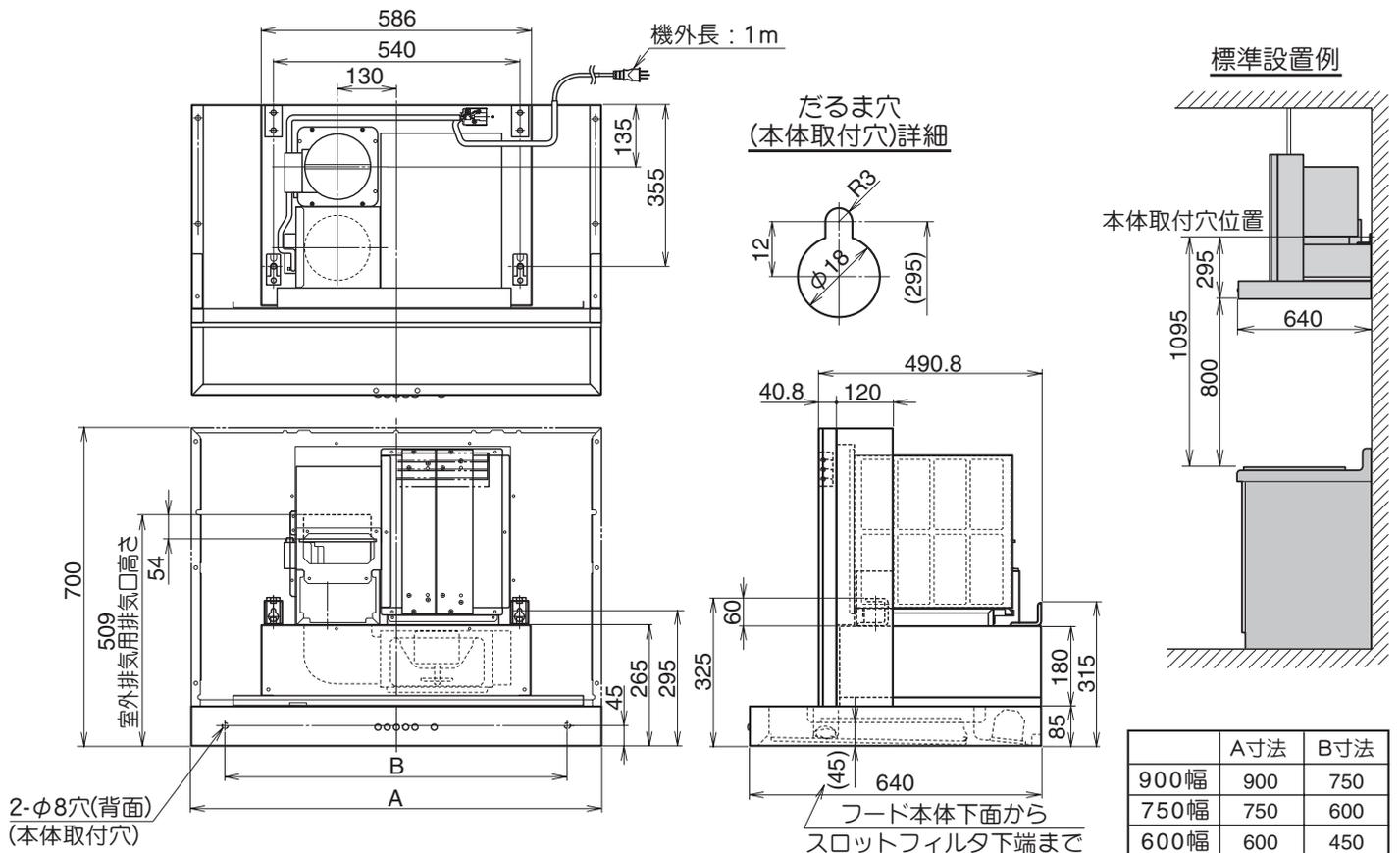
必ずアース (D 種接地工事) をしてください。
室内循環フードが誤作動することがあります。



各部のなまえ

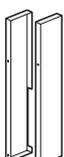
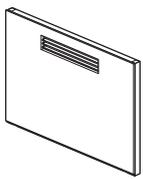
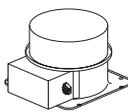


製品寸法図

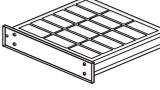
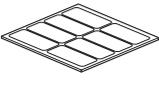
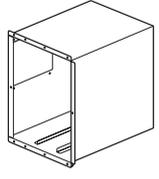
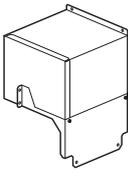


付属品

室内循環フード本体付属品

	座付ねじ φ 5.1 × 45 (4本)	本体の取り付けに 使います。		ソフトテープ (5mm厚, 10mm厚) (各1本)	Lチャンバーと排気 口、排気口とダクト とのすきまをふさぐの に使います。
	トラスねじ M4 × 8 (4本)	各フィルターの取り付 けに使います。		横ふさぎ板 (右・左) (各1個)	幕板の横をふさぐの に使います。
	取付 (なべ) ねじ M4 × 8 (32本)	電動シャッター、循 環ユニットおよび幕 板等の取り付けに使 います。		前ふた・循環幕板・ チャンバーボックス (1個)	前ふた、循環幕板、 チャンバーボックスが セットになっていま す。 幕板と循環ユニットを つなぐのに使います。
 【循環用】	排気口 (電動シャッター) (各1個)	本体と循環ユニッ ト、および本体と排 気ダクトの接続に使 います。		Lチャンバー 固定金具 (1個)	Lチャンバーを本体に 取り付けるのに使 います。
 【排気用】					

循環ユニット (別売品)

	油吸着フィルター (1個)	循環ユニット構成部 品です。		エアフィルター (1個)	循環ユニット構成部 品です。
	脱煙フィルター (1個)			循環ユニット本体 (1個)	
	脱臭フィルター (1個)			Lチャンバー (1個)	

取り付けかた

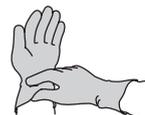
1. 付属品の確認

⚠ 注意



取扱注意

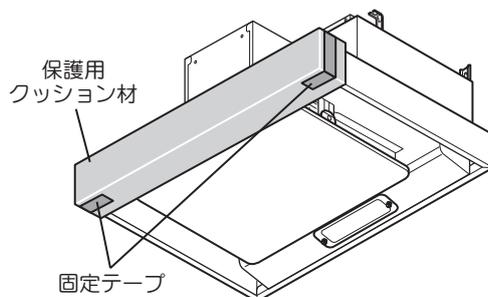
- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



本製品は室内循環フード本体部と循環ユニット部が別梱包になっています。
梱包箱から付属品を取り出し、付属品一覧(9ページ)により不足がないか確認します。
別売品の循環ユニットも同様に付属品一覧(9ページ)により不足がないか確認します。

お願い

- ・保護用のクッション材と固定テープはキズ・破損防止のためは
ずさないでください。
- ・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ず
シートを敷いた上で作業をおこなってください。
- ・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- ・各種フィルター類の取り扱いには十分ご注意ください。落下さ
せたり強くぶついたりすると、フィルター内部を破損するおそ
れがあります。



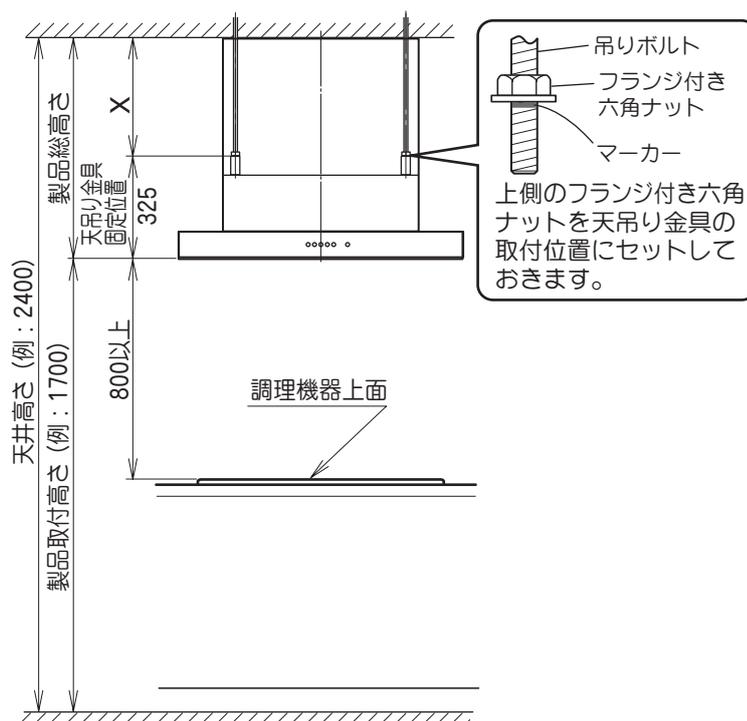
2. 本体の準備

1 吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付けます。

上側のフランジ付き六角ナットの位置(天吊り金具取付位置)は製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくことで後作業が容易になります。

※ 吊りボルト、フランジ付き六角ナットは取付作業側で手配願います。

マーカー位置は 製品総高さ - 325mm
です。



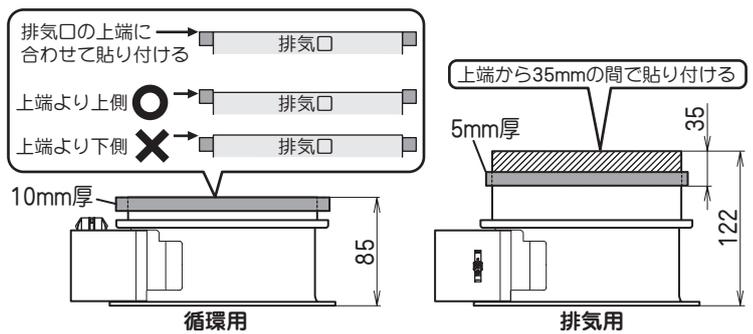
取り付けかた

2 排気用および循環用電動シャッターに付属品のソフトテープを貼り付けます。

※ 使用するソフトテープが下記の通り異なりますので貼り付け前に十分確認してください。

- ・ 排気用 ……5mm 厚
- ・ 循環用 ……10mm 厚

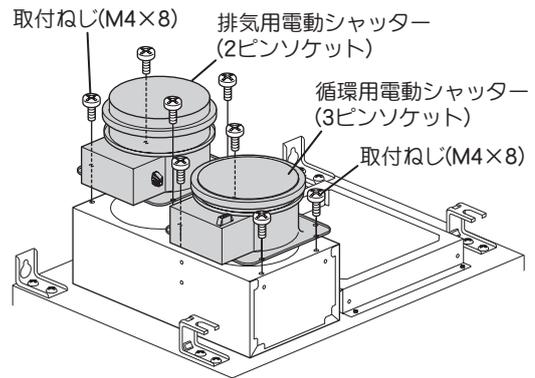
※ 各貼付位置は右図を参照してください。



3 電動シャッターを本体に取り付けます。

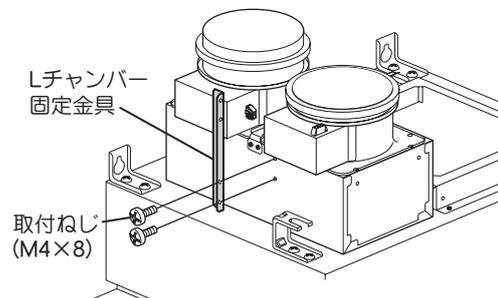
付属品の取付ねじ (M4 × 8) 各 4 本で排気用および循環用電動シャッターを取り付けます。

※ 取付方向および取付位置を間違えないよう、十分確認の上取り付けてください。



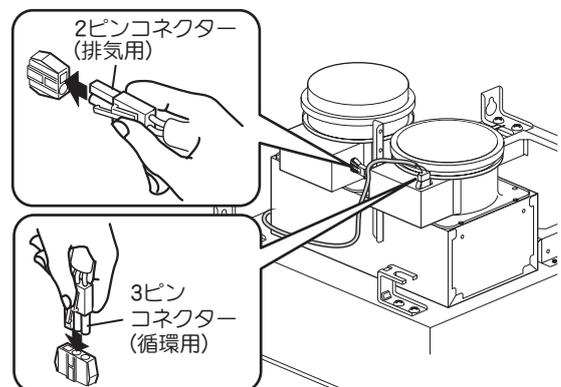
4 Lチャンバー固定金具を取り付けます。

付属品のLチャンバー固定金具を付属品の取付ねじ (M4 × 8) 2 本で本体の右図位置に取り付けます。



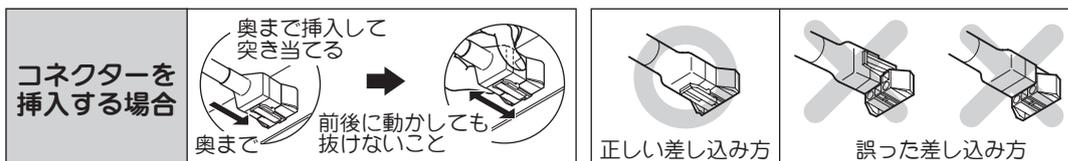
5 本体の連動線を電動シャッターの各ソケットに接続します。

- 2ピンコネクター
排気用電動シャッターのソケットに接続します。
- 3ピンコネクター
循環用電動シャッターのソケットに接続します。



お願い

- ・ コネクターの接続は確実におこなってください。接続が不十分な場合、室内循環フードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
- ・ コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。



取り付けかた

3. 本体の取り付け

⚠ 注意



取付注意

- 室内循環フードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実に起こなうこと

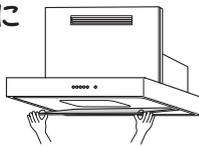
落下によりけがをする
おそれがあります



取付注意

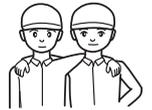
- 部品の取り付けは確実に起こなうこと

落下によりけがをする
おそれがあります



取付注意

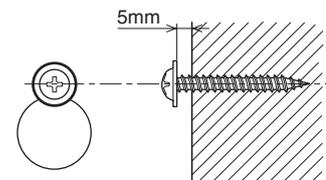
- 作業は2人以上でおこなうこと
製品は以下の重さがあります



600 幅	38 kg
750 幅	40 kg
900 幅	42 kg

1 座付ねじをねじ込みます。

製品寸法図を参照して、だるま穴位置（左右各1ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。



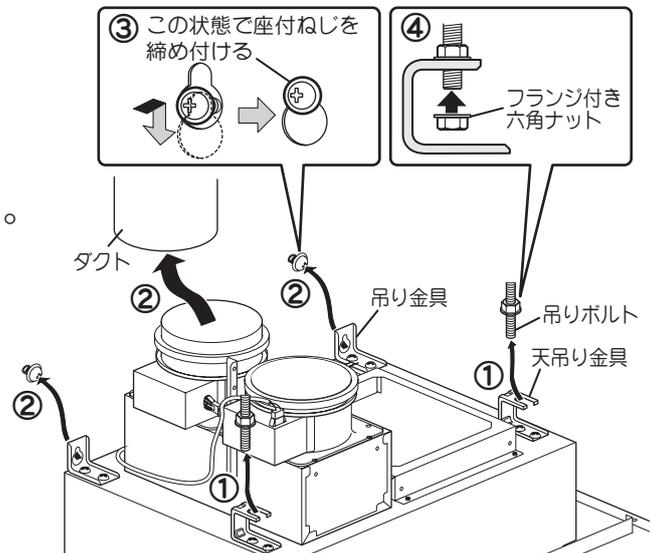
2 本体を取り付けます。

1) 吊りボルト先端を天吊り金具に通し（①）、ダクトに排気口を差し込みながら座付ねじに本体のだるま穴を引っ掛けた後（②）、座付ねじ2本をしっかりと締め付けます（③）。

2) 天吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側からフランジ付き六角ナットを取り付け、しっかりと締め付けます（④）。

お願い

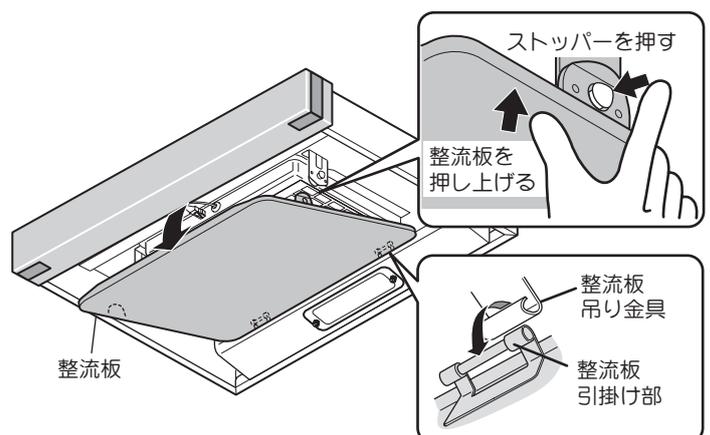
本体の水平度を確認しながら固定してください。



3 整流板をはずします。

整流板の左右を両手で支え、押し上げます。左右のストッパーを押し込みながらゆっくりと 10cm 程度おろした状態で、整流板を少し奥に押しながら上に持ち上げ、整流板吊り金具からはずします。

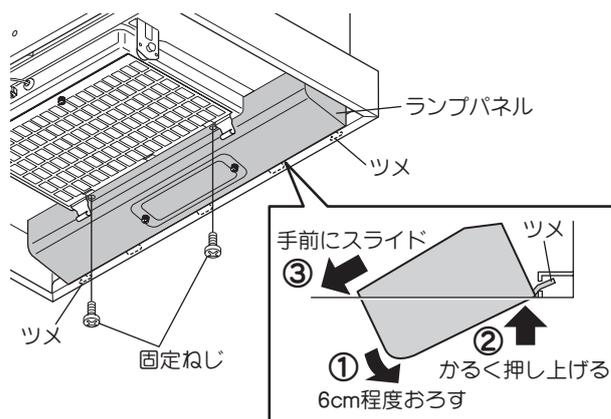
※ 必ず左右同時にはずしてください。
整流板吊り金具の変形の原因になります。



取り付けかた

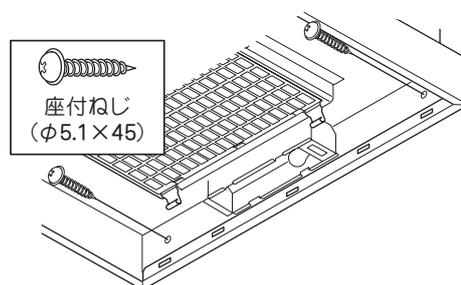
4 ランプパネルをはずします。

- 1) 2ヶ所のランプパネル固定ねじをはずします。
- 2) 前側を6cm程度おろし、そのままの状態の後側をかるく押し上げ、手前にスライドさせて後側両端にあるツメをはずし、ランプパネルをはずします。



5 本体背面をねじで固定します。

座付ねじ(φ5.1×45)2本で本体の背面をしっかりと固定します。



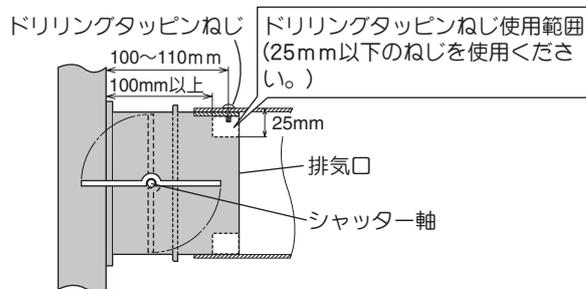
6 ランプパネル・整流板を取り付けます。

ランプパネルおよび整流板をはずしたときと逆の手順で取り付けます。

4. ダクトと排気用部品の接続

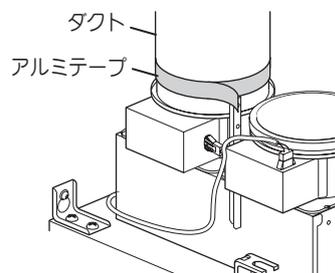
お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。



風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。

ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。

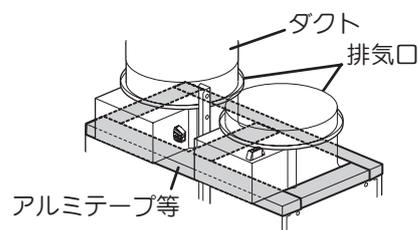


■ 排気口設置面の漏風確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに室内循環フードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面(製品天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。

風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。

漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。

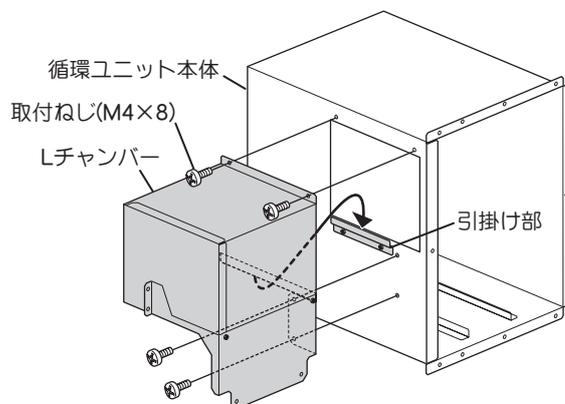


取り付けかた

5. 循環ユニット本体の取り付け

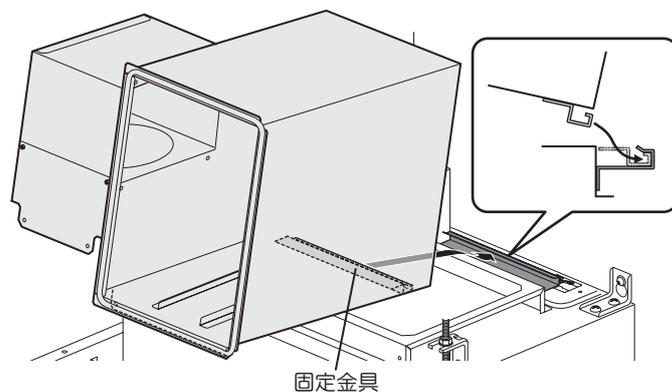
1 循環ユニット本体にLチャンバーを取り付けます。

循環ユニット本体に収納されているLチャンバーを取り出し、本体の引掛け部に引っ掛けて付属品の取付ねじ（M4 × 8）4本で本体に固定します。

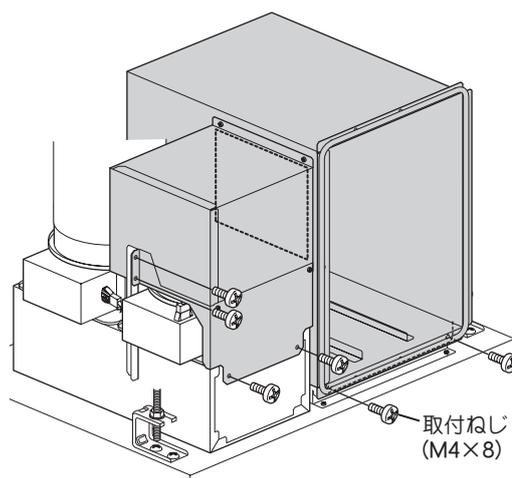


2 循環ユニット本体を取り付けます。

1) 循環ユニット本体底部奥にある固定金具が、本体の台座部の奥側に落ち込むまで差し込みます。



2) 付属品の取付ねじ（M4 × 8）6本で本体に固定します。



取り付けかた

6. 電気配線

警告



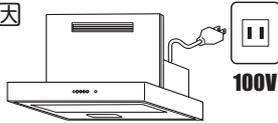
分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります



アースを
取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

1 アース（D 種接地工事）を取ります。

※アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

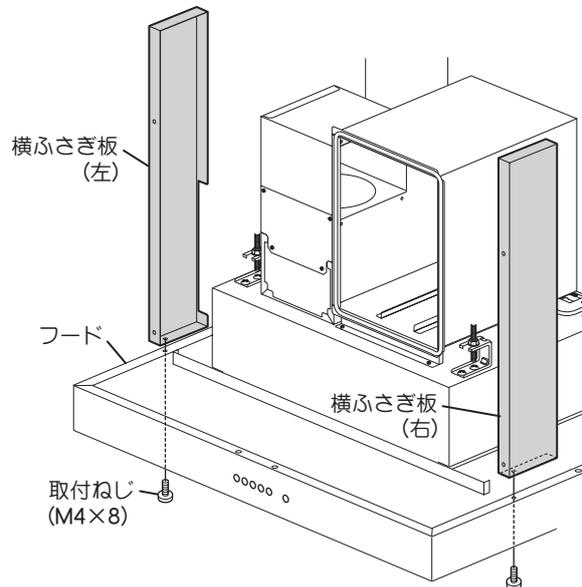
お願い

- ・電源は専用のコンセント（2 極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- ・コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。

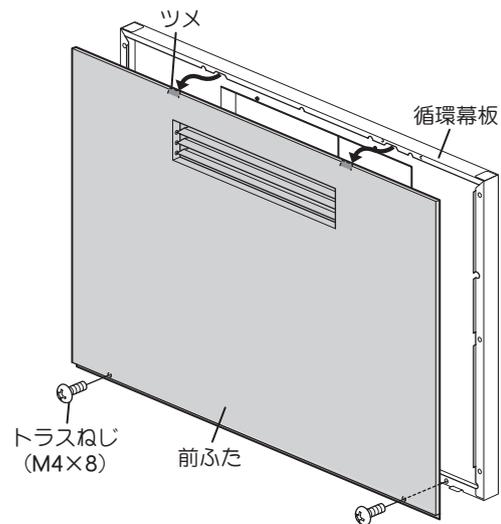
取り付けかた

7. 横ふさぎ板・循環幕板の取り付け

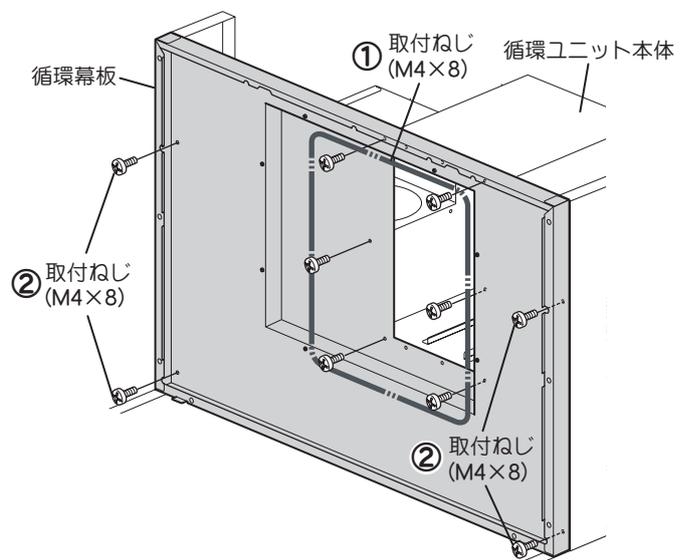
- 1** 横ふさぎ板（左・右）を取り付けます。
横ふさぎ板の左・右に注意して、付属品の取付ねじ（M4 × 8）各1本でフードの内面（下側）から固定します。



- 2** 循環幕板から前ふたをはずします。
前ふたを固定しているトラスねじ（M4 × 8）2本をはずし、前ふた上部のツメを循環幕板の切り欠き部からはずします。
※ このねじは「9. 各フィルター・前ふたの取り付け」手順2（19ページ）にて再度使用しますのでなくさないでください。



- 3** 循環幕板を取り付けます。
- 1) 循環幕板を循環ユニット本体に付属品の取付ねじ（M4 × 8）6本で固定します（①）。
 - 2) 循環幕板の左右を付属品の取付ねじ（M4 × 8）各2本で固定します（②）。



取り付けかた

8. 各フィルターの組み立て

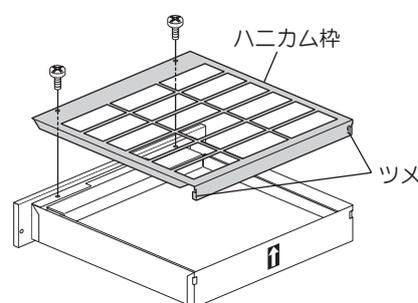
お願い

- 各種フィルター類の取り扱いには十分ご注意ください。
落下させたり強くぶついたりすると、フィルター内部を破損するおそれがあります。
- フィルターの粉が落ちる場合があります。
粉が衣服等に付着した場合、落ちなくなることがありますので取り扱いには十分注意してください。

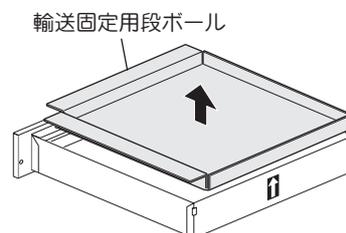
1 脱煙フィルターを組み立てます。

脱煙フィルターは油吸着フィルターに重ねた状態でハニカム枠に収納され、本体に取り付けますが、出荷時は別梱包になっています。

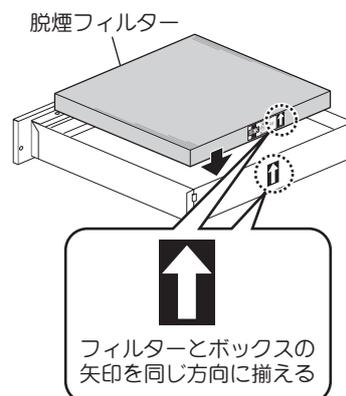
- 1) ハニカム枠上側のねじ2本をはずし、ハニカム枠を開きながら、下側2ヶ所のツメをフレームからはずして取り除きます。



- 2) 輸送固定用ダンボールを取り除きます。



- 3) 脱煙フィルターを袋から取り出し、ボックス下側の矢印ラベルの方向と揃えて脱煙フィルターをセットします。



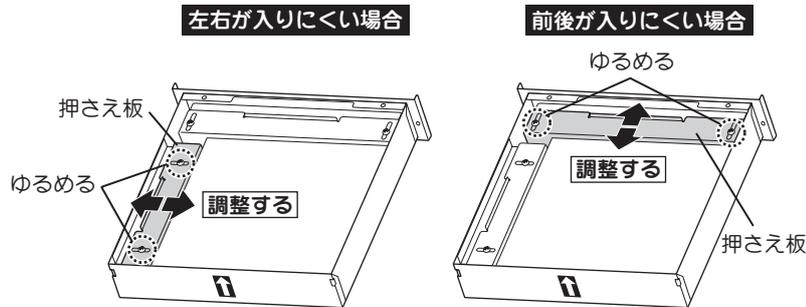
お願い

必ず脱煙フィルターとボックス下側の矢印を揃えてセットしてください。誤った取り付けをすると性能が悪化したり、吸い込みが悪くなり、異音・振動などの原因となることがあります。

取り付けかた

■ 脱煙フィルターが入りにくい場合は

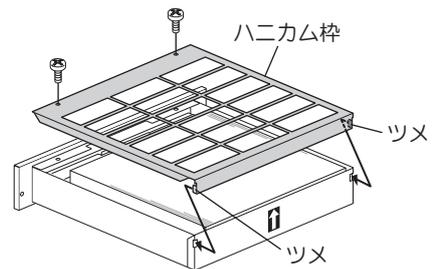
フィルターの奥行きや幅の大きさに若干のバラツキがあります。ボックスに脱煙フィルターが入りにくい場合は下図に示す箇所のねじを少し緩めて押さえ板をずらしてから脱煙フィルターを挿入してください。挿入後は脱煙フィルターにガタがないように押さえ板の位置を調整し、再度ねじを締め付けてください。



お願い

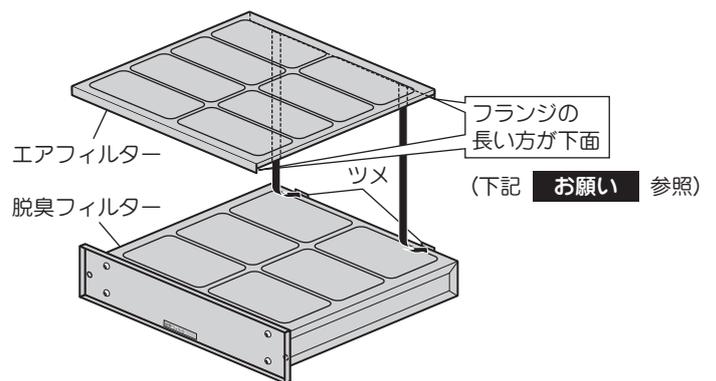
脱煙フィルターを挿入した後は、脱煙フィルターにガタがないように必ず押さえ板の位置を調整し、ねじを締め付けてください。性能の低下や異音の原因になります。

- 4) ハニカム枠下側のツメをボックス下側の穴に合わせてふたをし、上側をはずしたねじ2本で固定します。



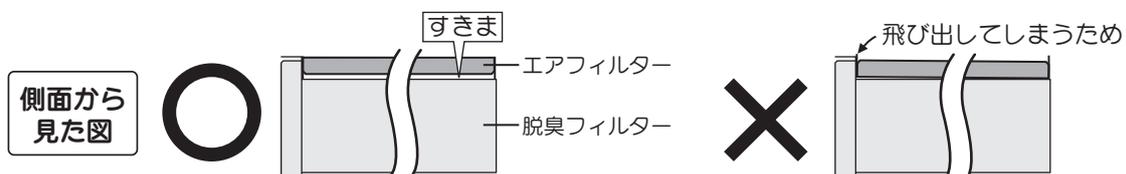
2 脱臭フィルターを組み立てます。

脱臭フィルターの奥側のツメに当てるようにしてエアフィルターを載せます。



お願い

エアフィルターを載せる際は、脱臭フィルターとエアフィルターとの間にすきまが空く面を下側にしてください。

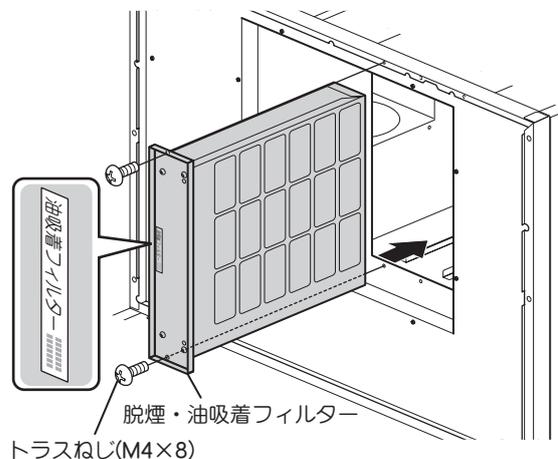


取り付けかた

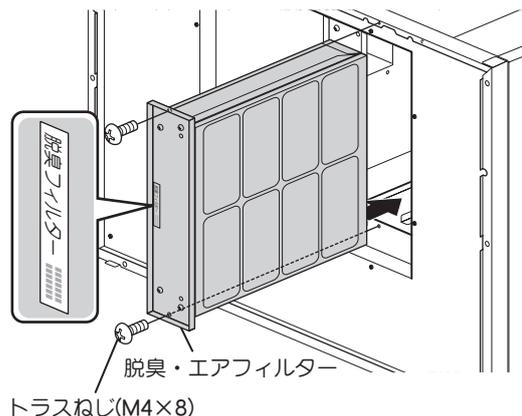
9. 各フィルター・前ふたの取り付け

1 各フィルターを取り付けます。

- 1) 脱煙・油吸着フィルターを図のように差し込み、付属品のトラスねじ (M4 × 8) 2本で固定します。



- 2) 脱臭・エアフィルターを脱煙・油吸着フィルターの横に差し込み、付属品のトラスねじ (M4 × 8) 2本で固定します。

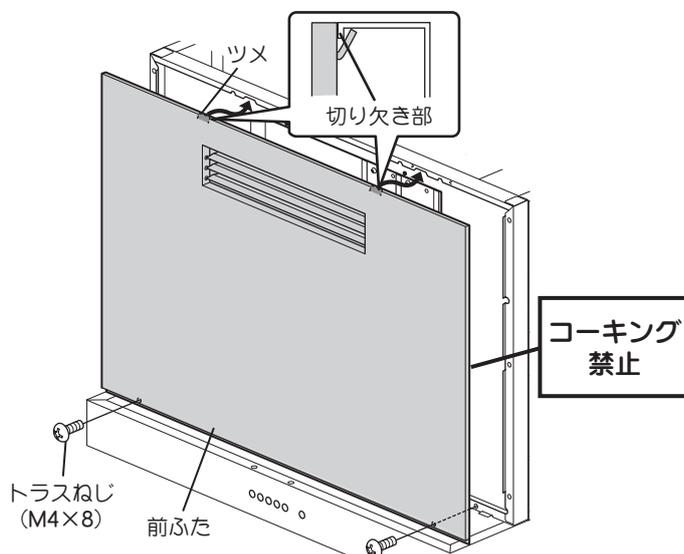


2 前ふたを取り付けます。

- 1) 前ふた上部のツメを循環幕板の切り欠き部に引っ掛け、前ふた下部を「7. 横ふさぎ板・循環幕板の取り付け」手順2 (16ページ) ではなくしたトラスねじ (M4 × 8) 2本で固定します。

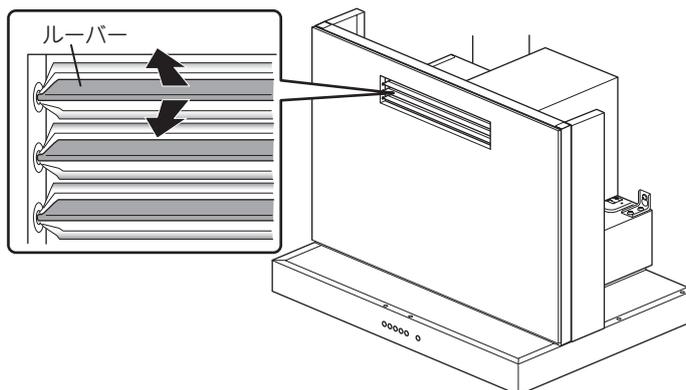
お願い

フィルター交換の際に前ふたを取りはずしますので、前ふたの外周はコーキングをしないでください。



取り付けかた

2) ルーバーの向きを調節します。



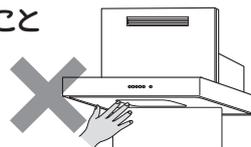
10. 試運転

⚠ 注意



接触禁止

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調が正しく運転されていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 「排気」モードで運転時、屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので
十分確認してください。

11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。